

卒 業 論 文

留学生向け中国語教材作成
(情報リテラシー)

福 岡 国 際 大 学
国際コミュニケーション学部
デジタルメディア学科

張 偉

目次

第1章 はじめに	1
第2章 制作手順と内容	2
2.1 作品概要	2
2.2 制作手順	3
第3章 必要な技術と知識	4
第4章 中国語版：情報リテラシー教材	5
第5章 まとめ	7
参考文献	8
付録	9

第1章

はじめに

大学へ留学生する中国人には、日本で日本語を勉強してから大学に入学する者と、中国から直接大学へ入学する者がいる。日本で日本語学校等で日本語を勉強し、それから大学へ入学する者は、ある程度の日本人の話す日本語に慣れ、基礎と日本事情が理解できている。しかし、中国から直接大学へ来る留学生は、日本人の話す日本語に慣れていない上、外来語などを多用している日本の事情をほとんど知らない。

また、大学で講義を受け、学問を修得するためには、日本語の日常会話が理解できるだけでは不十分である。授業の中でも、特にカタカナ用語の多い情報系の授業は、理解するのが難しいだろう。

さらに、当然のことながら、中国の学校での教育と、日本の学校での教育は違う。日本の大学の授業は日本の学校教育なので、中国で教育を受けた人には、わかりにくい言葉が多いのである。

以上のことから、日本で行われている大学の講義の補助として、中国語での教材が必要と考える。特に、コンピューター・リテラシーの授業は、他の情報系の講義を受講するために必要不可欠な内容であるため、中国語の教材が求められる。そこで、私は、中国人留学生がコンピューターの基本用語と基本操作の知識を身につけるために、情報リテラシーの教材作成を行った。

第 2 章

制作手順と内容

2.1 作品概要

情報リテラシーコンテンツ作成は、次の 8 章で構成されている。

1. はじめ
2. Windows の基本操作
3. インターネットと w w w
4. 電子メール
5. 著作権と肖像権
6. ネチケット
7. コンピューターの基本的な構成
8. 2 進数と 16 進数

なお、各章の内容は次の通りである。

1. 講義内容～コンピューターの基本操作
2. Windows の基本操作
3. コンピュータネットワーク～ Internet Explorer
4. Web メール、ActiveMail!の使い方、電子メールのルールと書き方
5. データ収集で注意すること、著作権が自由に使える場合と侵害 etc.
6. 電子メールでのルールとチェーンメールの定義 etc.
7. コンピューターの構成と内部紹介 etc.
8. 2 進数、10 進数、16 進数の演算 etc.

これらは、デジタルメディア学科の牧幸浩先生と古市恵美子先生が作成した PowerPoint の教材である。これを元に、中国語版の情報リテラシーの教材作成を行った。

2.2 制作手順

中国語版の教材作成に入る前にしなければならなかったのは、日本語版の8章の教材内容をよく理解するということである。内容が理解出来ていないと、日本語と中国語の単なる言葉の置き換えにしかならず、教材を読む留学生が授業内容を理解できないことになる。そこで、次のように章を組み立てていくことにした。

1. 留学生の立場で、この情報リテラシーとはどういう授業なのか、この授業を通して学んだことが、将来、何を役に立つのか、それらを理解し、提示しながら、講義内容を紹介。
2. コンピューターの基本操作と Windows の基本操作に着手して、徐々にそれらを深く説明。
4. コンピュータネットワークと Internet Explorer の概念、構造、使用などのことを説明。
5. ネットワークなどの知識を理解した上で、Web メール、ActiveMail! の使い方、電子メールのルールと書き方とデータ収集で注意すること、著作権が自由に使える場合と侵害などを詳しく説明。
6. 電子メールでのルールとチェーンメールの定義説明。
7. 概念などの説明のあと、コンピューターの構成と内部の紹介。
8. コンピューターはどのようにして計算できるのか、コンピューターの2進数、10進数、16進数の演算等の説明。

第3章

必要な技術と知識

中国語の教材を作るとき、まず、日本語の表現特徴を考える必要がある。

日本語では、漢字とカタカナの両方を使って、特に専門用語に対して、外来語を使って表現される。それは、外国人にとっては、非常に難解なことである。中国の場合は、外来からの言葉でも、全て漢字を使って表現する。

例えば、日本語では、「計算機」と「コンピューター」と「PC」と「Mac」といういくつかの言葉があって、意味はほとんど一緒だが、計算機は今ではほとんど使っていない。中国の場合は、2つの言葉を使って表現する。話し言葉では、大抵の場合「電腦」という言葉を使う。また、書く時には、「計算機」という言葉を使う(図1)。

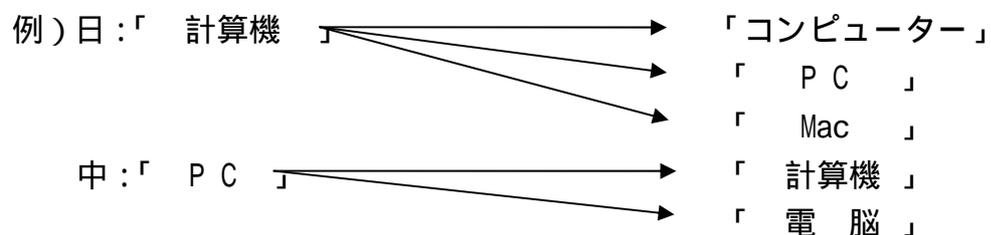


図1 日本語と中国語の表現の違い

以上のことより、日本語から中国語に訳す時、日本語と中国語の表現特徴を注意しないとイケない。直訳するとおかしい言葉になったり、意味がよくわからなくなったりしてしまうことがあるので、翻訳するときには、意味を考えて、一番適切な表現を探し出すのは重要なポイントである。特に次の二つを注意しないとイケない。

- ◆ 日本語は、英語や中国語とは異なり、外来語など分かりにくい言葉が多い。
- ◆ 日本の外来語に対応する中国語が少ない。

第4章

中国語版：情報リテラシー教材

情報リテラシーとは何なのか？

情報リテラシーとは、情報を使いこなす能力のことである。情報系を勉強しようとする学生だけでなく、コンピューターを使用しようとする学生にとっても、情報リテラシーは必要な知識と技術である。コンピューターを使う全ての行為・学問を情報系とするのであれば、情報リテラシーは情報系のスタートといえる。

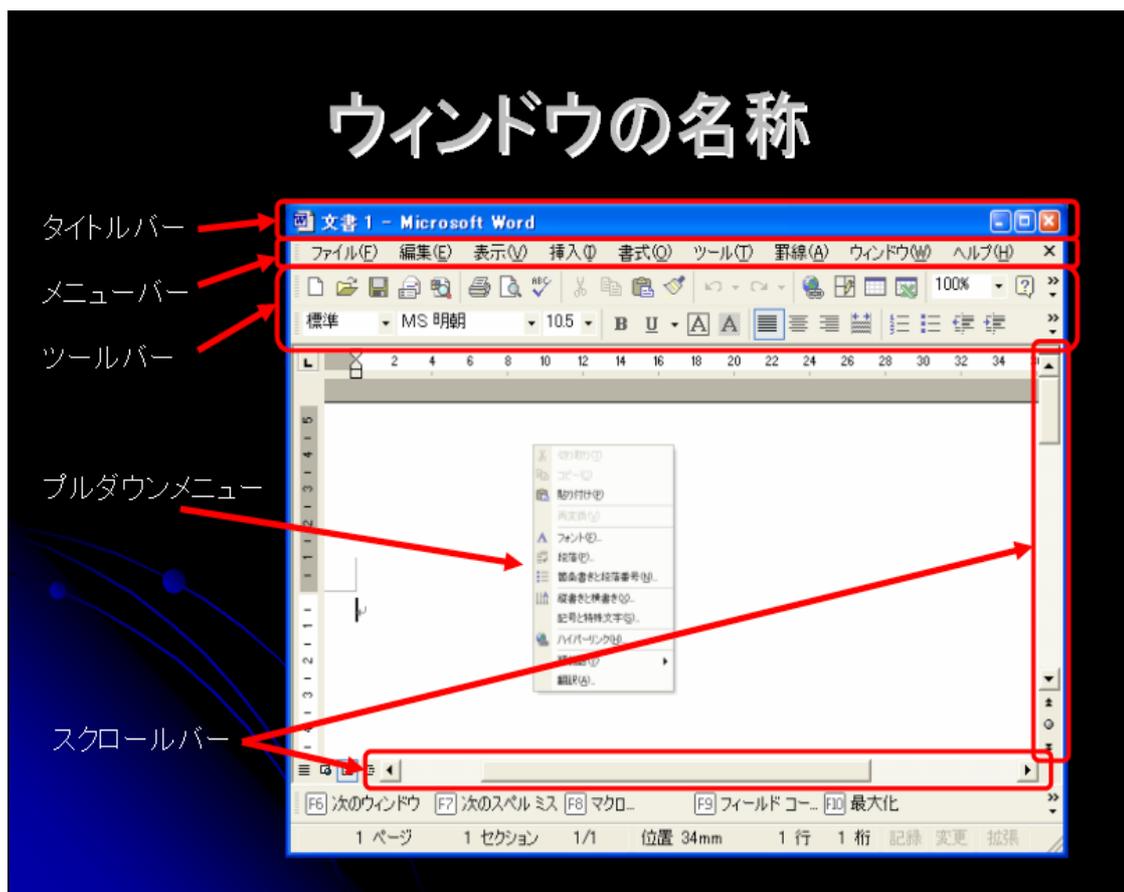


図2 日本語版：ウインドウの名称

図 2 は、翻訳する前の第 2 章 WINDOWS の基本操作、ウィンドウの名称の Powerpoint 画面である。見てわかるように、ウィンドウの各名称は全部カタカナで表現されている。その各名称をどう中国語に訳すべきか、専門用語の辞書を調べたり、ホームページで探したり、教科書を引いたり、色々検討をした結果、完成したものが図 3 である。

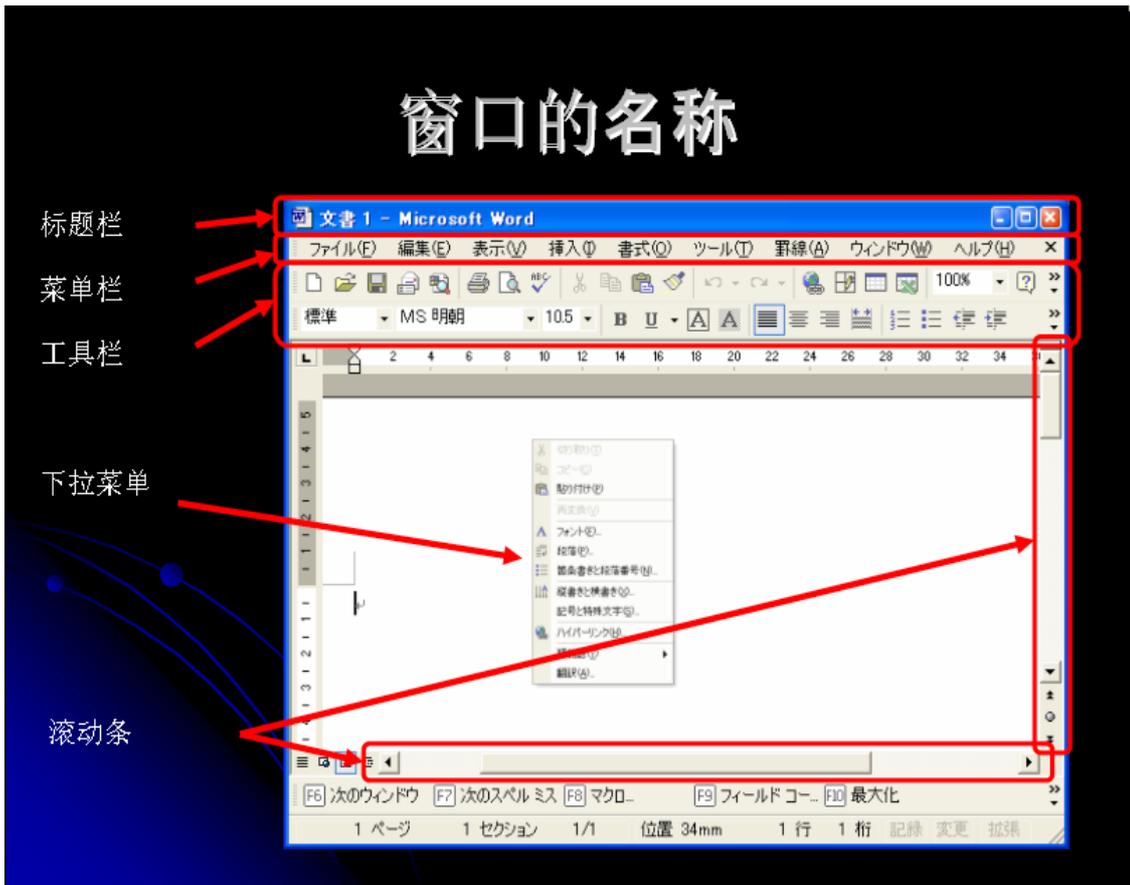


図 3 中国語版：ウインドウの名称

第5章

まとめ

成果としては、情報リテラシーの日本語教材に基づいて、パワーポイントファイルを8章133ページ、中国語に翻訳し、中国語の教材を作成した。

反省点としては、なかなか翻訳できないような専門用語が多いため、どうしても個人的な表現(造語)になったところがあることである。いろいろと調べ、一番適切な言葉で表現するように努力はした。

中国語版の情報リテラシー教材で、中国からの留学生が情報リテラシーを理解できるようになると思う。また、中国語教材を日本語教材と照らし合わせながら勉強することによって、日本語の勉強にもなるはずである。

ぜひ、この教材を留学生向けの情報リテラシー授業に役立てていただきたいと思う。

参考文献

参考にした書籍

タイトル：『新编计算机基础知识与操作』

著者：袁 玫

出版社：电子工业出版社

ISBN：7505389556

タイトル：『计算机应用基础教程』

著者：李 小红

出版社：西北工业大学出版社

ISBN：7561220820

参考にしたHP

<http://www.videostudy.com/study/free/basic/basic.htm#>,

日中電子辞書

付録

付録に、中国語版の情報リテラシー教材をつける。
なお、目次は次の通りである。

- 第 1 章 开始
- 第 2 章 Windows 的基本操作
- 第 3 章 互联网和 WWW
- 第 4 章 电子邮件
- 第 5 章 著作权和肖像权
- 第 6 章 网络礼仪
- 第 7 章 计算机的基本构成
- 第 8 章 2 进制和 6 进制